

○ 農業濁水防止のための作業法のチェックリスト

項目		技術実践前の留意事項	具体的技術のポイント		新技術等
				チェック	
秋の管理 作業	点検	<ul style="list-style-type: none"> ・前作が畑作物の場合、夏場乾燥による畦畔崩れも確認。また、モグラ等の穴を念入りに確認。 ・前作が水稲の場合、前作で漏水した個所に目印を設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・モグラ等のあぜ際の穴を補修 		
	秋耕	<ul style="list-style-type: none"> ・ロータリ耕では、ほ場条件に応じて畦耕(平面耕に溝を掘って排水を良くする)を実施し、冬季の湿潤状態を防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・平耕起(平面耕)による均平度の維持(ロータリ) ・深耕による稲わらの腐熟促進(ロータリ、パワーディスク、スタブルカルチ、プラウ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・レーザー均平機の利用 	
春の管理 作業	あぜ塗り	<ul style="list-style-type: none"> ・特に転作跡では、あぜ塗り作業を行う(土壌の性質に留意) 	<ul style="list-style-type: none"> ・亀裂防止のために3月下旬以降の作業 ・あぜに雑草が発生している場合は、作業前に草刈りを実施 ・乾いた土壌条件で作業を回避 		
	春耕	(土壌の性質に留意)	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目の春耕は、抑草対策のため3月下旬から4月上旬に実施 ・入水前のロータリ耕で、高い碎土率の確保と春雑草の抑制 		
代かき 作業	荒代	<ul style="list-style-type: none"> ・土の移動を少なくするために、急旋回を行わないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・止水板の適切な設置によるオーバーフロー防止 ・入水前にあぜ際をトラクタで走行して後輪で踏圧 	<ul style="list-style-type: none"> ・下流域への濁水流出防止のための調整水田の設置 	
		(土壌の性質に留意)	<ul style="list-style-type: none"> ・土面が70%以上の割合で作業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・荒代後の石膏資材の散布 	
	植代	(土壌の性質に留意)	<ul style="list-style-type: none"> ・代かきを植代1回で仕上げる場合は、土面70%以上の割合で作業を実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・代かき作業時のGPSガイダンスの利用
		<ul style="list-style-type: none"> ・水田ハローのポジション(耕深)を確認(水田ハローの爪は、ロータリ爪より短いため、ロータリによる荒代時のポジションでは浅すぎるため) ・土の移動を少なくするために、急旋回を行わないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・荒代後の植代の場合は、凸部の土面がわずかに見える水深で作業を実施 		
植代後		<ul style="list-style-type: none"> ・植代後には、田植前の強制落水を防止するために極力入水しないこと 			
田植え 作業	田植	<ul style="list-style-type: none"> ・田植えが可能な土壌条件になったら、速やかに作業を実施→地域の条件に応じて設定(土壌の性質に留意) 	<ul style="list-style-type: none"> ・強制落水なしに田植え作業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・自動直進田植機(直進キー or GNSS)の利用 	
共通事項			<ul style="list-style-type: none"> ・適切な作業計画の策定と実践(作業工程表の作成、営農管理システム等の活用) ・集落内での研修会の開催 ・水管理の状況把握のため、定期的なほ場巡回の実施 		